平成２６年度 弘前市市民評価会議議事概要（第２回）				
日　時	平成２６年１１月１１日（火）　15 時 00 分～17 時 11 分			
場　所	弘前市役所本館４階 第二委員会室		傍聴者	２人
出席者 （１３人）	委員 （７人）	村松委員、一戸委員、新堀委員、村上委員、 田澤委員、佐藤委員、相馬委員		
	事務局 （６人）	経営戦略部長、政策推進課主査、行政経営課長、行政経営課長補佐、主幹、総括主査		
	その他	－		

会　議　概　要

１　開会

２　案件

（１）評価方法等について

・事前説明資料、資料１、参考資料１、参考資料２について事務局から説明し了承を得た。

（２）アクションプランの評価について

【約束６の評価について】

〇委員

昨年度に協議しましたが、合併して新弘前になって、旧岩木町、旧相馬村については、意見、要望がまだあるということでしたが、合併から１０年経って、旧三市町村の関係性は上手くいっているのではないかと地域活動に携わって個人的には思っている。どちらかといえば、旧町村の方は、いい事より不満等が多く出ているということであるかもしれませんが、良いところもたくさん出ていると思っている。いまの行政は旧岩木町、旧相馬村に対してもいろいろケアしてもらっているし、総括すると合併して良かったと思っている。次は合併して、ある程度の痛みは伴うかもしれないが、例えば、旧市町村の境界で隣り合っている学区があれば一緒になるとか、地区単位で配置されている施設も人口が少なくなっているので共同で利用するように合併後の区域に基づくことが、合併して、１０年、２０年経って良かったとなる。具体的には旧岩木町の子供が岩木地区の学校に行くより旧相馬村の学校に行くほうが近いとか、公民館を一緒に使うということが必要だと感じていました。

〇委員長

全体としては、慣れということもあるかもしれないが、不満の割合が減少傾向で進んでいる。更に今話があったようなことも進めていくということでしょうか。

医師数が維持されているというものも出ているが、何かご意見はあるか。

〇委員
　市立病院の今後のあり方についても大きく左右されると思う。弘前では年間約２千人亡くなって、生まれる子どもが千２～３百人、確実に年間７～８百人の人口が減っています。７百人ずつ減ると１０年では７千人。医師の数はそんなには大きく変わらないのではないかと感じている。編成病院のあり方、周辺の自治体病院との関わり方で医師数が変わってくる。但し、自治体病院の場合はどうしても、国、県との関わりが大きく出てくるので、弘前独自でどうこうというのは、一概に言えない。他県ではまだまだ病床ベッドを増やして良いところあるが、青森県は一切認めてなく市立病院も認められないという難しいところもある。
　ちなみに、人口の差はあるが、市立病院が７０人ちょっと、八戸の市民病院が１４０人の医師がいる。

〇委員長
　いろんな問題が出てくる可能性がある訳ですが、約束６は定住自立圏構想に基づいて「津軽地域の中核都市として、近隣市町村との連携強化を図ります」の課題と今後の方向性としては、自己評価内容で良いということで、それに先程出てきた意見を付け加えます。

【約束２－（１）の評価について】

〇委員
　弘前市だけでもないかもしれないが、地方はやはり農業を中心として活性化しなくてはならない。弘前市は農業がりんご、米、野菜、中でも特にりんごが厳しくなれば、旧弘前市内の商店も厳しくなるという状況の中で、行政はいろんな事業を打ち出しながらやっている。しかし、今年は、米が一番高い時期に比べて半分以下になっていしまっている。一時期減量政策で１俵６０キロで約２万円近くまでだったが、今年は１万円を割る。しかし、スーパーではそのまま安く売っているかと言えばそうではない。なぜ安くならないのかというと去年までの在庫があるため。この内容を見ると、りんごが大きい割合となっているので、特に今年は米がこういう状況で農家が危機感を覚えているので、弘前はりんごのみならず、米、野菜も、この３つの柱を中心に農業振興に力を入れていかなければならないと感じている。

〇委員長
　去年のアンケートで市の取り組みはりんごばかりという意見が出ていた。農業生産は確かにりんごが中心で「りんご課」をつくっているので重要だが、りんご以外の米と野菜の振興をきちんと図っていくべきではないかという意見でまとめさせていただきます。
　このほか、担い手の育成、耕作放棄地、果樹共済の加入率など、問題は山積のようですが、それらの課題に対していかがでしょうか。
　農業所得の向上を目指しているものであるが、農業所得を数字化して示していくとい

うのは何かないかと思っているが、難しいのでしょうか。この程度の所得をこの程度に伸ばしていくというような。全体としては、伸びているような印象に書いているがどうなのか。

〇委員
　所得の問題については、仮に伸びているとしても、そんなに大きく伸びていないと思う。農家はサラリーマンと同じで販売代金が預金口座に振込まれる。一番分かり易いのが農林中央金庫の青森支店、いわゆる農家のお金が入る金融機関があるのですが、何年も前から大して増えていない。特に農協系統の農産物代金が入る預貯金というのはそんなに伸びていない。それが後継者不足とか嫁不足とかいろいろ及んでくる。今言われたように伸びてないにしても所得の目標値が必要だと思う。なぜ必要かというと誰でも同じだがある程度目標を持って向上させたいとなると１次産業だけでなく６次産業までとなる。

〇委員長
　弘前大学の農業関係の論文では、やはり農業所得はどんどん落ちていく。落としてはいけないから、市の予算を使っていろんな施策やっているが、なかなか測りにくい。自己評価を読むとりんごも売れてきて所得が向上しているような内容となっているが不安に思っている。

〇委員
　私は直売所をやっているので、一部ではあるが、直売所で売ることで所得が伸びている部分もある。それによって活気が出て後継者が出てきているところもある。全部が駄目ではなく、マルシェを開いたり、ちょっとずつは農家と市民のつながりが出てきているのも事実である。但し、６次産業を行政で進めて補助金を使って商品化までは取り組むが、そこで終わってしまい行政も離してしまう。皆さん一生懸命工夫して取り組んでいるが販売先がないため世に出て行かない商品がいっぱいあり、せっかく作ったものをやめてしまうものが多くもったいない。行政が携わったのであれば売り先も見据えて、助成金を出さないと、農家の方もそこまで費やした時間とか自己負担もあるので農家の負担にならない形にして欲しいと思う。生果しか出していないものを商品として出すのはすごく良いことだが売るところまで指導して欲しいと思う。

〇事務局
　農業所得については、季節や天候の問題で動きが大きいため、全体的にはりんごだけではなく、他の作物も生産して、所得の安定化をする必要があると思っている。また、野菜では企業との契約栽培で安定的に取引ができるようにする取り組みを始めている。額ははっきりとはここでわからないが、所得は以前に比べて上がってきていると思っている。但し、りんごがまだ中心産業なので、りんごの動きが全体に影響があるということはある。
　また、６次産業の開発への支援を実施しているが、経営計画では販路の開拓についても補助であるが支援するという方向性を出しているところである。

〇委員長
　全体として方向性を持って所得を伸ばしていくことと、全国的な問題として農業所得が減っているなかで、弘前だけ伸ばすというのも難しいことだと思う。全体として農業所得を上げるということを評価するのが難しいところである。先程の米、野菜など、りんご以外の農産物についても取り組んで、注力していただきたいというところをまとめとしたい。
　農業振興に使っている税金はかなりあるが、市の総生産に占める割合に比べてどうかという議論もある。しかし十数パーセントの就業人口に占める割合でどこに資源を集中的に配分するのか。それから農業関係は補助金も多いのでタイアップするということもある。

〇委員
　全く言うとおりで人口の割に税金の投入額が多い。しかし、里山が崩壊すると、水の管理、米が安くなって作らなくなると遊休地になるとダムの機能が失われる。農業をいかに持続可能なものにするか、仮に預貯金が少ないとしても、少なくとも再生産できれば次の年につながっていく。以前は２～３年に１回価格が安くても２～３年に１回高くなると返済していくことができたが、最近の状況を見ると、後継者不足、嫁不足という問題があるが、それはお金にもつながっていくと思っている。

〇委員長
　市場原理に市としてどう介入するかということはここではなかなか議論できないが、全体として、米、それにプラスして、所得の向上についての目標設定をする必要があるのではないか。向上させるとは書いているが、目標設定をしていただきたいということでまとめたい。
　耕作放棄地についてはいかがでしょうか。

〇委員
　耕作放棄地を貸すことは出来るが、りんごも米も、機械が必要、農薬もかけなきゃならないので大変であるが、野菜なら出来る。それを直売所に持っていけばいい。それは、農協の役割であると思う。弘前が良いことは３つの農協があるのがよい。切磋琢磨して指導してやらせるか。いま国で農協改革やっているがこの動きに乗って、枠を撤廃して競争すればいいと思う。そうなれば、耕作放棄地の対策にもつながる。
　都会では、月１０万円の年金では生活できないが、弘前では生活できる。農家の空き家をつかったりできるし、それは行政ではなく農協に頑張ってもらえばいいと思う。

〇委員長
　耕作放棄地が議論されたが経営計画の方向で努力して欲しいとまとめたい。

【約束２－（２）の評価について】

○委員
　今年、１０市の祭典があったかと思いますが、行きたいと周りの皆が騒いでいたし、結果的にとてもたくさんの人たちが集まったと思っている。自分たちの祭りも良いが、近隣を巻き込んでやることも面白い取り組みだと思う。

○委員
　新幹線の新函館駅が平成２８年に開業されるが、函館は、まちがコンパクトにまとまっていて、食も観光スポットもあって良い街に見えるので通過してみんなこっちに降りてこないのではないかと心配である。

○委員
　函館、青森、弘前、八戸で圏域を作って、首都圏からお客さんを取り込んでいこうという段階で、具体的なものは出てないのでかなり先は難しいと感じている。あと道南の方々を青森に呼び込めるのではないかという期待も込められているように聞いている。目指すところは意義があるのであるが、それに対する実行策の全体がまだ見えてきていないのが実情だと思う。バル街、物産などいろんな交流は進んでいるが民間の人とお金が流れるようなレベルまであげていくのは、なかなかハードルは高いと思っている。

○委員長
　観光振興については、掲げた目標に対して実績があがってない。震災があったこともあるが、Ｖ字回復はしたがその後伸びてない。

○委員
　弘前城の石垣改修について、もっとメディアなどで全国発信していけばいいと思う。１００年に一度のことで、堀を埋めて石垣を間近で見られることがすごいと思う。今しかできない経験である。好きな人がいるので面白いイベントとしてここ何年か出来るのではないか思っている。

○委員
　主な取り組みと成果で、四大祭りについては内容を充実させたという効果で観光客入込客数が増えたとしているが、りんご博覧会に関しては、実際のところは内容が地域向けである。イメージ戦略であるが過渡期にあるのではないか。観光客の入込客数に寄与したかどうか言われると、そこまでの成果としては謡えないというのが実感である。

○委員長
　りんご博覧会はこれからも続けていくと思うので、徐々に対外的な形にして観光客の呼び込みに役立つように改善を図って欲しいということでまとめたい。
　自己評価に書いていることではありますが、新幹線の開通などに合わせた観光客の呼び込みについて、力を注いでいただきたいということでまとめたい。
　一番大きな問題は見に来てくれるが、泊まってくれないという課題がある。何か提言はないでしょうか。

○委員
　団体客は管理しなければいけないので、近隣市町村の大きな宿泊施設を利用するが、弘前は街歩きなど個人客をターゲットにしているところもあるので、そういったところはもう少し小ぢんまりとした宿泊施設というように、旅行形態によって住み分けはされていくのではないかと思う。

○委員長
　近隣宿泊施設とも協力しながら取り組んでもらいたいということでまとめたいと思います。

【約束２－（３）の評価について】

○委員
　地元生産品を buy ひろさきということで数年前から取り組んでいるが、具体的な販売方法まで考えないとマーケットは動かないのではないかと思う。のぼり旗やポケットティッシュによる PR ではなく、もっと具体的な企画を考えて実施していくべきである。例えばお歳暮の時期であればデパートにコーナーを設けるなど草の根的な取り組みが必要ではないかと思っている。
　また、中心市街地活性化については、いろいろ新しい企画をしていると聞いているが、まだまだ歩みが遅いように思う。どうしても、民間の土地なので、民間の活力に期待しているのかと思うが、現状では家賃等の問題など事業自体が成り立たない状況でもある。それに対して、補助金云々ではなく、経済界や市が協力して、活性化を目指したほうがいい。例えば、市の役割として、モデル地区の設定などして見せて欲しい。
　建設業に関しては、忙しいし、潤っているようであるが、それ以外の産業についてはかなり弱いと思っている。今後ますます力を入れて欲しい。企業が元気で働く人が増えれば、人口が増えていくと思うので、この分野については力を入れて欲しい。

○委員
　土手町に関しては、歩行者天国をもっと実施すればいいのではないかと思う。

○委員長
　全体としてそれなりの成果は出ているのでこの方向性で取り組んでもらいたいが、議論の中では、非常に重要な問題でもあるので、危機感をもって対応していただきたい。例えば週一回の歩行者天国などを実施し、土手町に人を集めるという取り組みを実施すればいいのではないかということでまとめたい。
　全体としての印象は、所得が下がっているという印象があるということである。アクションプランに記載している取り組みについては、それなりの進展、評価ができるが、もっと、全体としての弘前の力を表す数値があるのではないか。そういったものの数値化、目標化を進めればいいのではないかということでまとめたい。

（２）その他
〔事務局説明〕
・第３回会議以降の日程について確認。

３　閉会